

令和7年度
あしたのまち・くらしづくり活動賞

審査講評

審査委員会委員長

室田昌子

(東京都市大学名誉教授)

はじめに

「あしたのまち・くらしづくり活動賞」は、住みよい地域社会の創造をめざして地域が直面する課題を解決するために、自らの独自の発想などで活動に取り組んでいる地域活動団体や、地域活動団体と積極的に連携をして地域づくりに取り組む企業、商店街、学校などの団体を懸賞するものです。

2006年から始めた本顕彰は、今年で20回目となりました。これまでの総応募数は、4093団体に達しております。おかげさまで今年度も、全国223団体もの多くの団体の皆様からご応募をいただきましたことを、まずは御礼申し上げます。

ご応募いただいた団体は、子どもの育成や

子育て支援、高齢者の生きがいづくりやスポーツ、景観・生活環境の形成や保全、地域文化・スポーツの推進、環境配慮・環境対策、自然環境の保全や活用、地域産業振興、食文化・地産地消、防災対策・防犯対策、地域の担い手育成、コミュニティ強化や地域活動の基盤づくりなどの多様な分野で活動をされている団体です。各地域で重要な分野に特化したり、あるいは活動を拡大して複数分野にまたがる活動をされています。

2025年度の表彰は、内閣総理大臣賞1団体、内閣官房長官賞1団体、総務大臣賞1団体、主催者賞5団体、振興奨励賞20団体となっています。従って、幅広い分野でそれぞれの地域に根差して活躍されている多くの団体から審査を行うこととなりました。

表彰結果について

内閣総理大臣賞は、新潟県新潟市の「沼垂テラス商店街株式会社テラスオフィス」が受賞しました。同商店街は空き店舗が多くシャッター街化した通りでしたが、同団体は地域の賑わいづくりをめざし新たな商店街づくりを行いました。地域の個性を生かしつつ、会社を設立して土地建物を買取り新たな出店を募るという方法で、ブランディング化に成功して賑わいを取り戻してきました。

高く評価された点として、大手チェーン店

などに頼ることなく独自に新店舗を募っていること、30〜40代のクリエイターが集まり連携や一体感が生まれていること、周辺地域にも影響を与え地域の新たなコアを形成したことがあげられます。約10年間で素晴らしい成果をあげており、出発点としてフルローンで土地建物を買収するという決断も、その郷土愛と行動力に対して大いに敬意を表します。商店街の衰退は全国各地で長らく続く問題ですが、全国のシャッター街を元気づけるとともに、学べき点が多く目標となる活動として受賞となりました。

内閣官房長官賞は、千葉県銚子市「一般財団法人銚子円卓会議」が受賞しました。市民のまちづくり活動の連携と支援を行うプラットフォームであり、ユニークな中間支援団体と言えます。企業等からの寄付を集めて地域の課題解決活動を支援し、活動の可視化と共感を促すプロジェクト、地場産品を備蓄品として生かすという災害時の他地域とのパートナー連携、小中学校生・大学生などの次世代の「出る杭を伸ばす」ローカルキャリア教育などの支援を行っています。

高く評価された点は、中間支援のあり方として地域の独自性、持続性、開放性、発展性などの多くの点を考慮して、明確なポリシーと豊かなアイデアのもとに運営されている点です。地域活動の先駆的な支援活動として大いに参考になると評価され受賞となりました。

た。

総務大臣賞は、宮城県気仙沼市の「特定非営利活動法人水梨かふえ」が受賞しました。過疎化の進む地域で、高齢者サロンからスタートして、子どもの居場所と子ども食堂、多世代交流、障がい児支援へと活動を広げ地域の拠点として発展した活動です。

高く評価された点として、地域の多様な住民の声を丁寧に取り上げつつ、時には説得を行い、住民からの共感と寄付や支援を受け、自立的に活動を広げ地域拠点として発展させたこと、地域の廃校を活用し、周辺の美化やさらに防災活動も行うなど、地域に根差し課題の解決に結び付ける点が評価され受賞となりました。

主催者賞は、以下の5団体が受賞しました。

北海道札幌市の「特定非営利活動法人札幌微助人倶楽部」は、介護保険などの公的サービスでは対応していない隙間を埋める支援を30年間にわたって実施してきた団体です。その継続性と、継続を支える有料制や有償ボランティアなどの仕組み、900名を超える会員による活発な支え合いなど、長きにわたり地域に力強く根付いている点が評価されました。

岩手県宮古市の「NPO法人みやっこペー」は、地元の震災復興に関わりたい高校生のサポートからスタートした活動で、子ども・若者が地域の課題解決をめざして主体的に活

動できる基盤づくりを行っています。若者の郷土愛と意欲を醸成し、若者のUターンが増加するという成果をあげており、地方再生を進める上で多くの地域で参考になる活動として評価されました。

新潟県三条市の「株式会社T R E E」は、若者の流出と商店街の衰退という課題に対し、若者が活躍して商店街の活性化を図るという拠点と基盤を形成しました。歴史的建造物を集客と活動の拠点とし、地域の空き店舗や古民家を改修して活用し、10店舗の増加、20代女性の来街の増加、歩行者の増加など、地域の新たな賑わいをもたらすという成果をあげています。同様の課題を抱える多くの地域に対する先駆的な試みとして評価されました。

京都府京都市の「六原まちづくり委員会」は、小学校の統廃合から始まって、空き家問題、防災、民泊、オーバーツーリズム、高齢化などの様々な地域課題の解決に向けて、自治連合会が意欲的な活動を進めています。地域内の各団体と協力し合い、外部の団体や大学生、専門家や行政などと連携した横つなぎの活動と、マップ作りや出版、協定締結、ドラマ仕立てのYouTube配信などの、多様な情報共有や情報発信も評価されました。

徳島県神山町の「神山しずくプロジェクト」は、放置人工林と水源の枯渇という問題に対して、人工林と暮らしの再構築をめざして、木工所を開設して職人育成や商品化を行い、

デザイン性の優れた多様な製品を作り出しました。さらにシンポジウムやワークショップを行い県内外に広く発信し、生態環境の回復もめざすという意欲的で発展的な活動を行っています。企業活動を通じた取り組みであり、全国的にもモデルとなる先進的な活動として評価されました。

振興奨励賞を受賞した20団体は、郷土意識とチャレンジ精神のもと、地域の資源をいかに効果的に活用するか、いかに多様な人々や若い世代の力を結集させるか、いかに課題解決や独自の魅力づくりにつなげていくかなどの工夫をされています。活動の姿勢がぶれることなく着実に活動を進化させ地域づくりを発展させています。また、地域に根差し住民組織や外部団体も含め多様な人々の力を結集させるような活動スタイル、エリアマネジメントや地域活動のプラットフォームづくりなど地域の活動基盤を強化する試みもあり、より多様化した活動方法が進みつつあります。

審査委員会としては、今回の受賞をきっかけに今後の益々のご活躍を大いに期待させていただいております。また、今回受賞をされなかった団体も大変素晴らしい活動をされており、引き続き活動のご発展を願っております。最後に、審査を通じて全国の素晴らしい活動を知ることができ、大いに勇気づけられ学びの機会をいただきましたことを心より感謝申し上げます。